



四種混合ワクチンの4-6歳時再接種のおすすめ

不活化ポリオワクチンの追加再接種が認められました。

ポリオワクチンは副作用の多い生ワクチンから、2012年9月に現在の不活化ワクチンへの切り替えがようやく行われました。このポリオワクチンは「ソーク株」という種類のワクチンで世界的に使われています。その後日本でもこれまでの三種混合に不活化ポリオが加えられ、四種混合ワクチンが開発され、2012年11月から定期化されました。この四種混合に入っている不活化ポリオワクチンは「セビン株」という世界では初めての種類ですが「ソーク株」と「セビン株」については同等の効果があることが確認されています。

この不活化ポリオの接種についても、1歳半までの4回接種を終えた後の4-6歳時にもう一度接種することが免疫をより効果的にすることから、欧米では定期化されています。日本では定期化はされませんがこの4-6歳に再接種することが厚労省から認められました。

百日咳ワクチンの抗体価は5歳頃には低下してしまう？

百日咳は6ヶ月未満で罹患すると重症になり、生命に関わります。そのため3ヶ月からの接種が勧められていますが、その抗体価は5歳頃には低下してしまうことが最近の研究で明らかになっています。この年代では生命に関わることは少ないのですが咳が長引きます。その為これも欧米では4-6歳に百日咳ワクチンを追加接種することが勧められています。

今年から日本でもポリオの「ソーク株」を用いた四種混合ワクチンが発売されました。このワクチンは百日咳に対する予防効果も高いことが予想されます。勿論これまでの四種混合で問題はありませんが、新しい四種混合ワクチンの4-6歳の追加接種で百日咳、ポリオの免疫をより高めてくれると思います。

4-6歳に四種混合の再接種をお勧めします。

以上のような理由から「ソーク株」を用いた新しい四種混合ワクチンの4-6歳での再接種をお勧めします。時期的には入学前の「麻疹・風疹ワクチン」との同時接種が適切と思います。詳しくはスタッフにご相談下さい。